

令和6(2024)年度 年間授業計画

教科・科目		国語 古典探究		2 単位						
対象学年・組		2年生 文系(含む特進)		文系 必履修						
教科書(出版社)		精選古典探究(大修館書店)								
学習目標【観点別】		国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高める。【知・技】								
		思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現する能力を育成する。【思・判・表】								
		国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。【態】								
学期	予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	話 聞	書 読	知	思	態	
1	前半	12	1 説話	<ul style="list-style-type: none"> ・話の舞台や背景に注目し、登場人物の行動に注意して読み、話の展開を把握する。 ・和歌の文化的背景とそれに携わる人物関係をふまえ、「大江山…」の和歌を軸に、人物の行動や心情を読み取る。 ・古典に対して興味をもち、古典文学と現代の小説や漫画を読み比べて、時代を超えて描かれる人物や話のおもしろさを 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の種類をふまえて、古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえている。 【主体的に学習に取り組む態度】平安時代の貴族文化をふまえて、登場人物の境遇や心情を理解しようとしている。 	○	○	○	○	○
	後半	12	2 随筆(一)	<ul style="list-style-type: none"> ・歌物語の特徴、和歌と地の文の関係や表現技巧を理解し味読する。 ・古典作品の再創造としてのパロディ(もじり)の面白さに触れる。 ・登場人物の行動や心情から、当時の人の生き方や考え方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思考・判断・表現】「読むこと」において、書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 【主体的に学習に取り組む態度】 	○	○	○	○	○
2	前半	16	3 物語(一)	<ul style="list-style-type: none"> ・歌物語の特徴、和歌と地の文の関係や表現技巧を理解し味読する。 ・古典作品の再創造としてのパロディ(もじり)の面白さに触れる。 ・登場人物の行動や心情から、当時の人の生き方や考え方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえている。 【主体的に学習に取り組む態度】作品の文学史的な位置づけを理解し、登場人物の心情をつかもうとしている。 	○	○	○	○	○
	後半	16	日記	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の人間関係を正確につかみ、それぞれの心理の動きをたどる。 ・物語中の人物描写などを味わい、作品をとりまく時代の背景、文化的環境についての理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の種類をふまえて、古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえている。 【主体的に学習に取り組む態度】平安時代の貴族文化をふまえて、登場人物の境遇や心情を理解しようとしている。 	○	○	○	○	○
3	14	5 思想	<ul style="list-style-type: none"> ・儒家の思想を理解する。 ・師弟のあり方や孔子の人柄について考える。 ・『論語』の思想を深く読み取り、自己の考え方を豊かにする。 ・性善・性悪をめぐる古代思想家の考え方を理解し、人間観形成を助ける。 ・道家の思想を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえている。 【主体的に学習に取り組む態度】近体詩について興味をもち、日本の言語文化に与えた影響について理解しようとしている。 	○	○	○	○	○	
評価の観点(評価基準)	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 【思考・判断・表現】「読むこと」において古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 【主体的に取り組む態度】古典文学と現代のさまざまな作品とのつながりを理解しようとしている。 									
評価の方法	・観察・ワークシート・小テスト・定期考査									
学習の手引き	<ul style="list-style-type: none"> ○毎回の授業を大切に、知識を正確に身に付ける。 ○古典文学に親しみ、国語に関する世界を広げようという意識を持つ。 ○知識から得られた発想や思考を積極的に発表する態度を育てる。 									
授業担当者	田中まどか・古川洋子									

令和6(2024)年度 年間授業計画										
教科・科目		国語 論理国語		2 単位						
対象学年・組		2年生(含む特進)		必修						
教科書(出版社)		新編 論理国語(大修館書店)								
学習目標【観点別】		<p>実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。【知識・技能】</p> <p>論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思考・判断・表現】</p> <p>言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【主体的に学習に取り組む態度】</p>								
学期	予定時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	話聞	書	読	知	思	態
1	前半	12 1 論理と出会う 「論理的な人」とはど ういう人か 2 具体と抽象 記号的メディアと物 理的メディア	・「論理」についての筆者の考えを 読み取る。 ・具体例の働きを的確にとらえ、具 体と抽象の関係についての理解を深 める。 ・文章の構成や展開に注目しなが ら、筆者の主張を読み取る。	【知・技】論証したり学習の基礎を学んだり するために必要な語感を磨き語彙を豊かにし ている。【(1)イ】【思・判・表】文章の内容 や構成、論理の展開などを的確にとらえ、要 旨を把握している。【B(1)ア】【主】論理的 に考える力を伸ばそうとしている。	○	○	○	○	○	○
	後半	12 3 対比をとらえる 対話の精神 デジタル地図から見え る世界	・筆者の主張と、それを支える 根拠の役割を的確にとらえる。 ・文章の構成や論理の展開に注 意しながら、要旨を把握する。	【知・技】情報と情報との関係について理解 を深めている。【(2)ア】【思・判・表】内容 や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論 点を明確にしながらいちいち要旨を把握している。【B (1)ア】【主】筆者の考えを読み取ることに興 味をもち、主張と根拠の関係をとりえようと している。		○	○	○	○	○
2	前半	14 4 主張をつかむ 人工の自然 「考える葦」であり続 ける	・筆者の問題意識をとらえ、主 張を読み取る。 ・読み取ったことをふまえて、 自分の思いや考えを深める。	【知・技】自らの考えを論証するために必要な語句 の働きを理解し、文章の中で使うことをとおして、 語感を磨き語彙を豊かにしている。【(1)イ】 【思・判・表】論理の展開などを的確にとらえ、論 点を明確にしながらいちいち要旨を把握している。【B(1) ア】【主】実生活でのさまざまな問いに対して積極 的に考えようとしている。	○	○	○	○	○	○
	後半	14 5 論理的に書く 6 統計資料を活用する	・根拠を明示しながら論理的に 主張を書く。 ・接続表現を適切に使って、論 理的な文章を書く。	【知・技】小論文における主張と根拠を示す接続表 現について理解を深めている。【(1)ウ】【思・判・ 表】「書くこと」において、根拠とする情報の妥当 性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明 確にして、主張を支える適切な根拠をそろえてい る。【A(1)イ】【主】適切な根拠を示しながら、自 分の主張を展開しようとしている。	○	○	○	○	○	○
3	18	7 比べて読む 紙の本はなくなるらない	・異なる立場の文章を比べて読 み、考えを深める。 ・対比の役割を意識して本文を 読み、論理の展開をとらえる。	【知・技】必要な語句の量を増し、文章の中 で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊 かにしている。【(1)イ】【思・判・表】根拠や 結論を導く論拠を批判的に検討し、解釈して いる。【B(1)ウ】【主】情報を的確に比較・整 理しながら、筆者の考えを読み取ろうとして いる。	○	○	○	○	○	○
評価の観点 (評価基準)	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。【知・技】論理的、批判的、創造的に考える力を伸ばすしている。【思・判・表】言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度で言葉の持つ価値を認識し、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。【主】									
評価の方法	観察、ワークシート、小テスト、レポート、定期考査									
学習の手引き	○日々の学習を大切にし、授業に積極的に参加すること。 ○生涯にわたり必要な国語の知識・技能を身に付け、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 ○他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。									
授業担当者	花嶋幸子・畠山慎太郎									

令和6(2024)年度 年間授業計画										
教科・科目		国語 文学国語		2 単位						
対象学年・組		2年生 文系(含む特進)		必修						
教科書(出版社)		新編 文学国語(大修館書店)								
学習目標【観点別】		<p>言葉がもつ価値への認識を深め、必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。【知識・技能】</p> <p>文学的な文章に親しみ、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思考・判断・表現】</p> <p>主体的・対話的で深い学びをとおして、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。【主体的に学習に取り組む態度】</p>								
学期	予定時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	話聞	書	読	知	思	態
1	前半	1 明日をひらく 少なくとも最後まで歩 かなかつた 2 小説を楽しむ(一) ナイン	・筆者の考えと比較しながら、 自分の生き方について考えを深 める。 ・場面設定の仕方を通して登場 人物の心情を考える。	【知・技】・言葉には、想像や心情を豊かにする働 きがあることを理解している。〔(1)ア〕 【思・判・表】・文章の種類を踏まえて、内容や構 成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 〔B(1)ア〕 【主】・筆者の考え方と比較しながら、自分の生き 方について考えを深めようとしている。	○	○	○	○	○	○
	後半	1 明日をひらく そとみとなかみ 2 小説を楽しむ(一) 晴れた空の下で	・筆者のいう「外側」と「内 側」を理解し、外側と内側の関 係について考える。 ・本文の描写や言葉遣いから 「わし」の性格や心情をとらえ る。	【知・技】・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量 を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている〔(1)イ〕 【思・判・表】・語り手の視点や場面の設定の仕方、表現 の特色について評価することを通して、内容を解釈してい る。〔B(1)イ〕 【主】・登場人物の心情を読み取ることに興味をもち、作 品の構造を理解しようとしている。	○	○	○	○	○	○
2	前半	4 名作を読む(一) 山月記 5 社会に生きる 神去なあなあ日常	・登場人物の生き方から、自分 自身の生き方に関する考えを深 める。 ・仕事や自然に対する描写を読 み取り、ものの見方、感じ方を 豊かにする。	【知・技】・我が国の言語文化の特質について理解 を深めている。〔(2)ア〕 【思・判・表】・他の作品と比較するなどして、文 体の特徴や効果について考察している。〔B(1)ウ〕 【主】・作品に興味をもち、小説の文体や登場人物 の心情について理解を深めようとしている。	○	○	○	○	○	○
	後半	2 小説を楽しむ(二) おぼろ月 5 社会に生きる 鞆	・小説を読む楽しさを味わう。 ・この話に込められた寓意を読 み取り、考えを深める。	【知・技】・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、 考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 〔(2)イ〕 【思・判・表】 ・文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について 考察している。〔B(1)エ〕 【主】・作品に興味をもち、この話に込められた寓意を読み取るう としたり考えを深めたりしようとしている。	○	○	○	○	○	○
3	18	6 表現を味わう 身内ほど厄介なもの はない 柿 ぼくのお母さん 読書の広場 さくら日和	・さまざまな文章を読み、構成 や表現の工夫を読み取る。 ・作品の構造や語り手の視点を 意識しながら、作品を味わう。	【知・技】・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあ ることを理解している。〔(1)ア〕 【思・判・表】・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展 開、描写の仕方などを的確に捉えている。〔B(1)ア〕 【主】・本文の内容を解釈し、自分とは異なる文化をもつ 人とコミュニケーションをとるにあたり、どのような配慮 が必要か考えようとしている。	○	○	○	○	○	○
評価の観点 (評価基準)		言葉がもつ価値への認識を深め、必要な国語の知識や技能を身に付けている。【知・技】文学的な文章に親しみ、共感したり想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養っている。【思・判・表】主体的・対話的で深い学びをとおして、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。【主】								
評価の方法		観察、ワークシート、小テスト、レポート、定期考査								
学習の手引き		○日々の学習を大切にし、授業に積極的に参加すること。 ○生涯にわたり必要な国語の知識・技能を身に付け、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 ○他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。								
授業担当者		花嶋幸子・畠山慎太郎								

令和6(2024)年度 年間授業計画

教科・科目		地理歴史 日本史総合		2 単位			
対象学年・組		2年生 文系(含む特進)		必修選択			
教科書(出版社)		日本史探究 高校日本史(山川出版社)		図説日本史通覧(帝国書院)			
学習目標【観点別】		我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。(知識・技能) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、概念などを活用して多面的・多角的に考察したりしたことを効果的に説明したり、議論したりする力を養う。(思考・判断・表現力) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、多面的・多角的な考察や日本国民としての自覚、尊重することの大切さについての自覚などを深める。(主体的に学習に取り組む態度)					
学期	予定時	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態
1	前半	12 原始	<ul style="list-style-type: none"> ・日本文化のあけぼの ・古墳とヤマト政権 	発掘調査成果から得られる情報を収集して、理解している。 文献資料から、多角的に考察した結果を根拠を示して表現している。 弥生文化の特色や推古朝の政治、飛鳥文化の展開についての課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○
	後半	12 古代	<ul style="list-style-type: none"> ・律令国家の形成 ・貴族政治の展開 	遣唐使の派遣に着目し、律令体制の観点から摂関政治を理解している。 諸勢力と土地制度を関連づけながら、摂関政治とその後の展開を考察し、根拠を示して表現している。 律令体制の課題や、摂関政治期の特色を明らかにしようとしている。	○	○	○
2	前半	14 中世	<ul style="list-style-type: none"> ・院政と武士の進出 ・武家政権の成立 ・武家社会の成長 	源平の争乱から執権政治までの過程、幕府滅亡後の政治権力の推移を、諸資料から情報を収集して理解している。 東アジアの国際情勢の変化について、多面的・多角的に考察し、表現している。 鎌倉時代を通じた武家の支配の特質について主体的に追究しようとしている。	○	○	○
	後半	14 近世・近代	<ul style="list-style-type: none"> ・近世の幕開け ・幕藩体制の成立と展開 ・幕藩体制の動揺 ・近世から近代へ ・近代国家の成立 	諸資料を読み取り、江戸時代の社会、文明開化の風潮について、理解している。 幕藩体制の特質、欧米の思想の影響を多面的・多角的に考察し、表現している。 幕藩体制が確立する画期、歴史の展開における画期についての課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	○	○	○
3	18	近現代	<ul style="list-style-type: none"> ・近代国家の展開と国際関係 ・近代の産業と生活 ・恐慌と第二次世界大戦 ・現代の世界と日本 	第二次世界大戦、55年体制崩壊、バブル経済、平成不況について理解している。 全体主義、冷戦後について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。 第二次世界大戦後の日本の役割について、課題を見出して主体的に追究しようとしている。	○	○	○
評価の観点(評価基準)		<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な事項を理解しているか。 ・ワークシートで、自分の考えを自分の言葉で表現することが出来ているか。 ・授業への参加態度、発言など。 					
評価の方法		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査及び、単元の小テストを中心に評価する。 ・授業態度、提出物への取り組み、出席状況も考慮する。 					
学習の手引き		<ul style="list-style-type: none"> ・現代的諸課題がどのようなルーツで生まれたか、その原因を探るワークに取り組む。 ・現代的諸課題を解決するための視点として、歴史を思考ツールとして身に付ける。 					
授業担当者		池谷孝明					

令和6(2024)年度 年間授業計画						
教科・科目		地理歴史 世界史総合		2 単位		
対象学年・組		2年生 文系		必修選択		
教科書(出版社)		高校世界史(山川出版社)				
学習目標【観点別】		<p>世界の歴史に関する様々な諸事象について理解し、諸資料から適切な情報を効果的にまとめることができる</p> <p>世界の歴史に関する様々な事象について多面的・多角的に考察したり説明したりすることができる</p> <p>世界の歴史に関する様々な事象について、よりよい社会の実現に向けて課題を主体的に探求しようとすることができる。</p>				
学期	予 定 時	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思 態
1	前半	世界史へのまなざし 諸地域の歴史的特質の形成	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境からみる人類の歴史 文明の成立と古代文明の特質 	<ul style="list-style-type: none"> 人類の進化、文明の成立について正しく理解できている 諸資料から、古代の文明が成立した要因を多面的・多角的に考察することが出来ている 見通しを持って学習に臨むことが出来ている。 	○	○
	後半	諸地域の歴史的特質の形成	<ul style="list-style-type: none"> 西アジアと地中海周辺の国家形成 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 	<ul style="list-style-type: none"> 古代・中世にかけて、各地域で発展した特質について正しく理解することが出来ている。 諸資料から、各地域が持つ歴史的特質について多面的・多角的に考察することが出来ている。 見通しを持って学習に臨むことが出来ている。 	○	○
2	前半	諸地域の交流・再編	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパ世界の変容と展開 大交易・大交流の時代 近代ヨーロッパ世界の動向 	<ul style="list-style-type: none"> 中世から近代にかけての各地域の歴史について正しく理解することが出来ている。 諸資料から、各地域間の交流によってもたらされた影響について多面的・多角的に考察することが出来ている。 見通しを持って学習に臨むことが出来ている。 	○	○
	後半	諸地域の結合・変容	<ul style="list-style-type: none"> 産業革命と環太平洋革命 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 帝国主義とアジアの民族運動 第一次世界大戦と社会の変容 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 	<ul style="list-style-type: none"> 近代における国民国家の形成や帝国主義などについて正しく理解することが出来ている。 諸資料から、国民国家の形成によってもたらされた影響について多面的・多角的に考察することが出来ている。 見通しを持って学習に臨むことが出来ている。 	○	○
3	18	地球世界の課題	<ul style="list-style-type: none"> 冷戦と第三世界の台頭 冷戦の終結と今日の世界 	<ul style="list-style-type: none"> 大戦後に構築された新しい国際秩序や現代の諸課題について正しく理解することが出来ている。 諸資料から、現代の諸課題について多面的・多角的に考察することが出来ている。 現代の諸課題について、主体的に解決しようとしている。 	○	○
評価の観点(評価基準)	<p>○授業において、発表・討論・その他諸課題に対して、主体的に取り組んでいるか。</p> <p>○歴史的なものの見方や考え方を身に付けられたか。</p> <p>○歴史的現象から考察したことを自分の言葉で論理的に人に伝えることができたか。</p>					
評価の方法	定期考査、授業態度、提出物等により総合的に評価する。					
学習の手引き	<p>○授業に対して、自ら学ぶ姿勢と他者から学ぶ姿勢を大切にし、意欲的・積極的に参加すること。</p> <p>○国内外を問わず、日々の出来事に関心を持ち、歴史的な視点で事象を捉えるようにすること。</p> <p>○教科書の学習を通して新たに湧いて出た疑問点を自ら考え、解決する姿勢をもつこと。</p>					
授業担当者	早稲田 弘貴					

令和6(2024)年度 年間授業計画

教科・科目		公民 公共		2 単位			
対象学年・組		2年生		必修			
教科書(出版社)		公共(実教出版社)					
学習目標【観点別】		<p>考察・選択・判断のための手掛かりとなる概念・理論を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。【知識及び技能】</p> <p>現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。【思考・判断・表現力】</p> <p>現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。【主体的に学習に取り組む態度】</p>					
学期	予定時	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態
1	前半	12 社会を作る私たち 人間としてよく生きる	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯における青年期の意義 ○自己形成の課題(1) ○自己形成の課題(2) ○古代ギリシアの人間観 	青年期の意義や特徴への深い理解を通して、社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。よく生きること、幸福に生きることについて、多面的に考察し、適切に表現している。	○	○	○
	後半	12 民主社会の倫理 民主国家における基本原理	<ul style="list-style-type: none"> ○自由・権利と責任・義務 ○民主政治の成立 ○民主政治の基本原理 ○日本国憲法の基本的性格 	個人の自由と他者の自由の衝突といった問題について協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。多面的・多角的な考察や深い理解を通して、民主主義、法の支配といった公共的な空間における基本的な原理について理解しようとしている。	○	○	○
2	前半	14 日本の政治機構と政治参加	<ul style="list-style-type: none"> ○政治機構と国会 ○行政権と行政機能の拡大 ○公正な裁判の保障 ○選挙制度 ○世論と政治参加 	よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、司法参加の意義、政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○
	後半	14 現代の経済社会	<ul style="list-style-type: none"> ○経済主体と経済活動の意義 ○経済社会の変容 ○金融の役割 ○財政の役割と租税 ○日本の財政の課題 	多面的・多角的な考察や深い理解を通して、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○
3	18	日本経済の特質と国民生活	<ul style="list-style-type: none"> ○消費者問題 ○労働問題と労働者の権利 ○今日の労働問題 ○社会保障の役割 ○社会保障制度の課題 	多面的・多角的な考察や深い理解を通して、多様な契約及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○
評価の観点(評価基準)	<ul style="list-style-type: none"> ○授業や調査、発表、課題について、主体的に取り組んでいるか。 ○多面的・多角的なものの見方・考え方を身に付けられたか。(基礎・基本事項の習得) ○社会的事象から考察したことを自分の言葉で論理的に人に伝えることができるか。 						
評価の方法	定期考査、小テスト、プレゼンテーション、授業態度、提出物等により評価						
学習の手引き	<ul style="list-style-type: none"> ○授業に対して、自ら学ぶ姿勢と他者から学ぶ姿勢を大切に、意欲的・積極的に参加する。 ○国内外を問わず、日々の出来事に関心をもち、公共的な視点で事象を捉えるようにする。 ○主権者・成人としての自覚や責任について、様々な事象から考える。 						
授業担当者	岡田 博彰						

令和6(2024)年度		年間授業計画						
教科・科目	数学	数学Ⅱ	4 単位					
対象学年・組	2年生(含む特進)		必修選択					
教科書 (出版社)	高等学校 数学Ⅱ (数研出版)		・Study-Upノート数学Ⅱ (数研出版) ・チャート式 解法と演習 数学Ⅱ・B (数研出版)					
学習目標 【観点別】	1. 基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 2. 物事を数学的に考察し処理する技能・能力を高める。 3. 数学的な見方や考え方を積極的に活用する態度を養う。							
学期	予定 時	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	
1	前半	24	第1章 式と証明	1. いろいろな式の計算 2. 等式・不等式の証明	・式の計算を体系的に理解し、正しく計算を行う能力を獲得する。 ・等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。	○	○	○
	後半	24	第2章 複素数と方程式 第3章 図形と方程式	1. 複素数と2次方程式の解 2. 高次方程式 1. 点と直線 2. 円 3. 軌跡と領域	・複素数を理解し、その計算を学ぶ。 ・2次方程式を解くことや解と係数の関係を学ぶ。 ・因数定理を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 ・座標概念を理解する。 ・1次方程式のグラフが座標平面上の直線であることを理解する。	○	○	○
2	前半	28	第4章 三角関数	1. 三角関数 2. 加法定理	・角度を拡張し弧度法を理解する。 ・三角関数の性質を理解する。 ・三角関数を含む方程式を取り上げ、また加法定理を理解する。	○	○	○
	後半	28	第5章 指数関数 と対数関数	1. 指数関数 2. 対数関数	・指数の拡張とそれぞれについて指数法則が成立つことを理解する。 ・対数を理解し、対数の性質について学ぶ。	○	○	○
3	36	第6章 微分法と積分法	1. 微分係数と導関数 2. 関数の値の変化 3. 積分法	・平均変化率と導関数を理解する。 ・接線の傾きを学び、関数の増減を理解しグラフを描く。 ・不定積分および定積分について理解する。 ・定積分の面積への応用を学ぶ。	○	○	○	
評価の観点 (評価基準)	・学習目標に対する到達度を評価する。・学習状態を評価する。							
評価の方法	定期考査・小テスト・課題・授業態度・出席状況など							
学習の手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・定義や概念を理解する。 ・定理・公式を理解し、その利用方法を整理する。 ・演習問題では、方針を立て、取り組む姿勢を身に付ける。 							
授業担当者	櫻井 友之, 長田 直樹, 今村 昶信							

令和6(2024)年度		年間授業計画						
教科・科目	数学	数学B	2 単位					
対象学年・組	2年生(含む特進)		必修選択					
教科書 (出版社)	高等学校 数学B(数研出版)		・Study-Upノート数学B(数研) ・チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B(数研)					
学習目標 【観点別】	1. 基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 2. 物事を数学的に考察し処理する技能・能力を高める。 3. 数学的な見方や考え方を積極的に活用する態度を養う。							
学期	予定 時	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	
1	前半	12	第1章 数列	1. 等差数列と等比数列 2. いろいろな数列	・数列の意味を体系的に理解し、正しく計算を行う能力を獲得する。 ・数列の和の公式が成り立つことを証明できるようにする。	○	○	○
	後半	12	第1章 数列	2. いろいろな数列 3. 漸化式と数学的帰納法	・漸化式を理解し、その計算を学ぶ。 ・群数列を解くことができる。 ・数列の和から一般項を求めることができるようにする。	○	○	○
2	前半	14	第2章 統計的な推測	1. 確率分布	・確率変数の意味を理解する。 ・期待値や分散を求められるようにする。 ・二項分布の意味を理解し問題を解けるようにする。	○	○	○
	後半	14	第2章 統計的な推測	1. 確率分布 2. 統計的な推測	・正規分布の意味を理解し、問題を解けるようにする。 ・母集団や標本などの意味を正しく理解する。	○	○	○
3	18	第2章 統計的な推測	2. 統計的な推測	・標本平均の分布を理解する。 ・仮説検定の用いて、事象の判断をできるようにする。	○	○	○	
評価の観点 (評価基準)	・学習目標に対する到達度を評価する。・学習状態を評価する。							
評価の方法	定期考査・小テスト・課題・授業態度・出席状況など							
学習の手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・定義や概念を理解する。 ・定理・公式を理解し、その利用方法を整理する。 ・演習問題では、方針を立て、取り組む姿勢を身に付ける。 							
授業担当者	櫻井 友之, 長田 直樹, 今村昶信							

令和6(2024)年度 年間授業計画									
教科・科目		数学		文系数学		2 単位			
対象学年・組		2年生 文系(含む特進)				必修選択			
教科書(出版社)		高等学校数学I(数研出版)				パラレルノート数学I 練習ドリル数学I 基礎から標準			
学習目標【観点別】		1. 基礎・基本を確実に身に付けさせ、基礎的な知識・技能を習得させる。【知識・技能】 2. 生徒の主体的・創造的な学習能力の育成を図り、生徒が学習の達成感を実感することが出来るようにする。【思考・判断・表現】 3. 生徒の数学に対する興味・関心を深め、数学的な見方や考え方の良さや有用性を実感できるようにする。【主体的に学習に取り組む態度】							
学期	予定時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態		
1	前半	12 式の計算 実数	1. 整式の加法と減法 2. 整式の乗法 3. 因数分解 4. 実数 5. 根号を含む式の計算	展開・因数分解などの基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ平方根などの応用問題を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。	○	○	○		
	後半	12 1次不等式 集合と命題	6. 不等式の性質 7. 1次不等式 8. 絶対値を含む方程式・不等式 9. 集合 10. 命題と条件 11. 命題とその逆・対偶・裏 12. 命題と証明	不等式の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ命題などの応用的な問題を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。	○	○	○		
2	前半	14 二次関数とグラフ 二次関数の値の変化	1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ 3. 2次関数の最大・最小 4. 2次関数の決定	二次関数の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ二次関数の最大最小などを求めることができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。	○	○	○		
	後半	14 二次方程式と二次不等式	5. 2次方程式 6. 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7. 2次不等式	二次方程式の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ二次不等式を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。	○	○	○		
3	18	図形と計量 データと分析	1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理・余弦定理の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用 9. データの分析	三角比の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえデータから分析することができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。	○	○	○		
評価の観点(評価基準)		教科書の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ応用問題を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。							
評価の方法		定期考査、授業態度、提出物等により評価							
学習の手引き		<ul style="list-style-type: none"> 定義や概念を理解する。 定理・公式を理解し、その利用方法を整理する。 演習問題では、方針を立て、取り組む姿勢を身に付ける。 							
授業担当者		櫻井 友之, 長田 直樹							

令和6(2024)年度		年間授業計画					
教科・科目	理科	物理基礎	2 単位				
対象学年・組	2年生 理系		理系 必履修				
教科書 (出版社)	新編 物理基礎 (数研出版)						
学習目標 【観点別】	物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究しようとする態度を養い、必要な知識や技能を身に付けるようにする。						
学期	予定時	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態
1	前半	12 運動の表し方	<ul style="list-style-type: none"> 運動の表し方 直線運動の加速度 物体の落下運動 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の表し方について、直線運動を中心に理解する 速度が変化する物体の直線運動に関して、速度と時間との関係を見だして理解する 物体が落下する際の運動の特徴を理解する 	○	○	○
	後半	12 様々な力とその働き	<ul style="list-style-type: none"> 様々な力 力のつり合い 運動の法則 	<ul style="list-style-type: none"> 物体に様々な力が働くことを理解する 物体に働く力のつり合いを理解する 物体の質量、物体に働く力、物体に生じる加速度の関係を理解し、運動の三法則を理解する 	○	○	○
2	前半	14 力学的エネルギー 熱	<ul style="list-style-type: none"> 運動エネルギーと位置エネルギー 力学的エネルギーの保存 熱と温度 熱の利用 	<ul style="list-style-type: none"> 運動エネルギーと位置エネルギーについて、仕事と関連付けて理解する 力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連付けて理解する 熱と温度について、原子や分子の熱運動の観点から理解する 熱の移動及び熱と仕事の変換について理解する 	○	○	○
	後半	14 波	<ul style="list-style-type: none"> 波の性質 音と振動 	<ul style="list-style-type: none"> 波の性質について、直線状に伝わる場合を中心に理解する 気柱の共鳴と音源の振動数を関連付けて理解し、弦の振動、音波の性質を理解する 	○	○	○
3	18	電気 エネルギーとその利用	<ul style="list-style-type: none"> 物質と電気抵抗 電気の利用 エネルギーとその利用 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ物質からなる導体でも長さや断面積によって電気抵抗が異なることを理解する。 発電、送電及び電気の利用について、基本的な仕組みを理解する 人類が利用可能なエネルギーの特性や利用などについて理解する 	○	○	○
評価の観点 (評価基準)	○物理的なものの見方・考え方を身に付けられたか ○物理現象を自分の言葉で論理的に人に伝えることができるか						
評価の方法	定期考査、授業での取り組み、提出物等により評価						
学習の手引き	○日々の学習を大切にし、授業に積極的に参加すること ○疑問を持ち、観察し、考え、議論すること						
授業担当者	田代 佑太						

令和6(2024)年度 年間授業計画

教科・科目		理科	地学基礎	2	単位		
対象学年・組		2年生 文系(含む特進)		必修			
教科書(出版社)		高等学校 地学基礎 (第一学習社)		二訂版ニューステージ 新地学図表 (浜島書店) 新課程版ネパール地学基礎 (第一学習社)			
学習目標【観点別】		<p>生きている地球の活動と地球環境の変遷、自然災害、宇宙に関する事物事象について、人間との関わりを含めて、観察・実験・実習等を通して理解する。【知識及び技能】</p> <p>自然の営みと地球環境、宇宙に関する事物事象について、論理的に考察し、互いに複雑に関連し合っていることを理解する。考察したことを表現できる。【思考力判断力表現力等】</p> <p>基本的な概念や原理・原則の理解を深め、地球科学的に考察する能力と態度を身につけ、科学的な自然観を習得する。【学びに向かう力、人間性等】</p>					
学期	予定時	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態
1	前半	宇宙の構成 太陽(恒星) 太陽系の中の地球	宇宙の始まり/宇宙の広がり と銀河の分布/宇宙の大規模構造/ 太陽の組成と構造/太陽の誕生と 将来/太陽/恒星の一生	宇宙の広がり と銀河の分布について理解する。 恒星としての太陽の仕組と進化について考える。	○	○	○
	後半	太陽系の中の地球 地球環境と生物界の変遷 ①	地球惑星と木星型惑星/生命の惑星・地球/ 原子地球の誕生～大気組成の変遷 (先カンブリア時代～古生代)/ 地球環境と生物界の変遷(古生代)	地球型惑星と木星型惑星を比較し 原始地球の環境について考える。 地球型惑星の特徴を比較し、過去の地球の環境を 考える。生命変遷の歴史を地球環境変遷の歴史と 関連付けて理解する。古生代末の大量絶滅について 理解する。	○	○	○
2	前半	移り変わる地球 地層や岩石と地質構造 地球環境と生物界の変遷 ② 地球環境と生物界の変遷 ③	地層の形成/堆積岩の種類/地殻の変動/ 変成岩と編成作用/地球環境と生物界の変遷 (中生代)/地球環境と生物界の変遷(新生代)/ 氷期と間氷期/最終氷期の環境変遷	地層と堆積岩の種類、断層などの地質構造、 変成岩、地球の歴史とその調べ方について理解する。 中生代末の環境変化と大量絶滅について理解する。 新生代の環境変化について理解する。 (とくに第四紀末の最終氷期の環境変遷について、 身近な事象として理解する。)	○	○	○
	後半	活動する地球 地球の姿 地震とそのしくみ	地球の形と大きさの測定/地球内部の層構造/ プレートの運動/大山脈の形成/地震発生のメカニズム/ 海溝型地震/活断層型地震/地震による災害と防災	地球の形と大きさ、内部構造と成り立ちについて知る。 地震火山山脈の仕組を理解する。地震現象を防災と 関連付けて理解する。津波について理解する。	○	○	○
3	18	火山活動と火成岩 大気と海洋の運動 地球の環境 日本の季節変化 日本の自然環境と災害	火山ができる場所/火山の地形/火山噴火のしくみ/ 火山活動の多様性/火山災害とハザードマップ/ 火成岩の種類と観察/火成岩の造岩鉱物/大気 の構成/大気圏の特徴/地球の熱収支/地球の 温暖化/日本の季節変化/気象災害と防災/ エルニーニョ現象	火山の仕組と噴火の多様性を理解する。火山活動 を防災と関連付けて理解する。火成岩と造岩鉱物・ 結晶構造を知る。大気大循環の仕組と風について 理解する。大気と海洋の構造と仕組を成り立ちから 考える。熱収支の仕組を理解する。日本の季節と 気象災害について理解する。アルベドと温暖化寒冷化 の仕組について理解する。	○	○	○
評価の観点(評価基準)	①自然現象に興味関心を持ち、そのしくみについて科学的に理解しようとしたか。 ②科学的なものの見方・考え方を身につけられたか。 ③自然現象のしくみについて自分の言葉で他の人に伝えることができるか。						
評価の方法	定期考査、授業態度、提出物等により総合的に評価する。						
学習の手引き	①日常の授業に真剣に取り組み、理解しようとする(授業の復習をしよう!) ②日ごろから自然科学に興味を持つ(新聞やニュースにも注目しよう!) ③言葉の暗記ではなく「なぜだろう?」という疑問を持って、自然を観察する。 ④しくみを理解しようとする。						
授業担当者	那賀俊明						

令和6(2024)年度		年間授業計画					
教科・科目	理科	化学	2 単位				
対象学年・組	2年生 理系(含む特進)		理系 必履修				
教科書 (出版社)	化学(東京書籍)						
学習目標 【観点別】	<p>○実験を通じ、科学的な概念や原理・法則を理解し、自然観を育成する【知識及び技能】</p> <p>○グループ学習等を通じ、論理的思考や説明能力を養う【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>○身近な現象に疑問を持ち、主体的に探究する態度を養う【学びに向かう力、人間性等】</p>						
学期	予定 時	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態
1	前半	12 第1章 物質の状態と平衡	1節 状態変化 2節 気体の性質	<ul style="list-style-type: none"> 状態変化に必要なエネルギーの計算を理解する。 物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連させて理解する。 公式を使って圧力、体積などを求める。 	○	○	○
	後半	12	3節 固体の構造 4節 溶液	<ul style="list-style-type: none"> 状態変化に必要なエネルギーの計算を理解する。 物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連させて理解する。 公式を使って圧力、体積などを求める。 	○	○	○
2	前半	14 第2章 物質の変化と平衡	1節 化学反応とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 濃度、温度、圧力体積との関係を理解する。 触媒と反応速度の関係について理解する。 ルシャトリエの原理で反応の進行方向を推理する。 	○	○	○
	後半	14	2節 反応の速さとしくみ 3節 化学平衡	<ul style="list-style-type: none"> 濃度、温度、圧力体積との関係を理解する。 触媒と反応速度の関係について理解する。 ルシャトリエの原理で反応の進行方向を推理する。 	○	○	○
3	18	第3章 無機物質	1節 周期表 2節 非金属元素 3節 金属元素 4節 無機物質と人間生活	<ul style="list-style-type: none"> 周期表と各元素の性質 典型元素と遷移元素の特徴 金属イオンの反応性について着目し、理解する。 	○	○	○
評価の観点 (評価基準)	<p>○授業や実験、観察について、主体的に取り組んでいるか。</p> <p>○化学的なものの見方・考え方を身に付けられたか。</p> <p>○自然現象を自分の言葉で論理的に人に伝えることができるか。</p>						
評価の方法	定期考査、授業態度、提出物等により評価						
学習の手引き	<p>○日々の学習を大切に、授業に積極的に参加すること。</p> <p>○身の周りの様々な事象に対し疑問を持ち、科学的な見方や考え方で事象を捉えること。</p> <p>○仮説を立てながら観察・実験に主体的に参加し、探究する態度を持つこと。</p>						
授業担当者	大原聡						

令和6(2024)年度				年間授業計画				
教科・科目		保健体育		体育		3 単位		
対象学年・組		2年生		必履修				
教科書 (出版社)								
学習目標 【観点別】		<p>○各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】</p> <p>○運動や健康についての自己や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>○生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】</p>						
学期	予 定 時	単 元 具 体 的 な 指 導 目 標	指 導 項 目 ・ 内 容	評 価 規 準	知	思	態	
1	前半	18	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・陸上競技 	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動 ・体力を高めるための運動 ・短距離走 	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方を身に付ける。 ・合理的な動きと比較して成果や改善すべきポイントを発見し、仲間に伝える。 ・主体的に取り組む。 	○	○	○
	後半	18	<ul style="list-style-type: none"> ・球技 ・武道 ・ダンス 	(男子) <ul style="list-style-type: none"> ・バレーボール ・ソフトボール ・柔道 (女子) <ul style="list-style-type: none"> ・バレーボール ・アルティメット ・ダンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・各運動種目の技能や動きを身に付ける ・自己や仲間の課題、練習方法について伝える。 ・自己の体力、体調に応じた適切な練習を選択したり、工夫をして取り組む。 ・互いに助け合い教え合おうとする。 ・ルールやマナーを守り、フェアプレイを大切にする。 	○	○	○
2	前半	21	<ul style="list-style-type: none"> ・球技 ・武道 ・ダンス 	(男子) <ul style="list-style-type: none"> ・バレーボール ・ソフトボール ・柔道 (女子) <ul style="list-style-type: none"> ・バレーボール ・アルティメット ・ダンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・各運動種目の技能や動きを身に付ける ・自己や仲間の課題、練習方法について伝える。 ・自己の体力、体調に応じた適切な練習を選択したり、工夫をして取り組む。 ・互いに助け合い教え合おうとする。 ・ルールやマナーを守り、フェアプレイを大切にする。 	○	○	○
	後半	21	<ul style="list-style-type: none"> ・球技 ・武道 ・ダンス 	(男子) <ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール ・サッカー ・柔道 (女子) <ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール ・フットサル ・ダンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・各運動種目の技能や動きを身に付ける ・自己や仲間の課題、練習方法について伝える。 ・自己の体力、体調に応じた適切な練習を選択したり、工夫をして取り組む。 ・互いに助け合い教え合おうとする。 ・ルールやマナーを守り、フェアプレイを大切にする。 	○	○	○
3	27	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技 ・球技 	(男子) <ul style="list-style-type: none"> ・長距離走 ・サッカー/バスケットボール (女子) <ul style="list-style-type: none"> ・長距離走 ・バスケットボール/バレーボール 	<ul style="list-style-type: none"> ・各運動種目の技能や動きを身に付ける ・自己や仲間の課題、練習方法について伝える。 ・自己の体力、体調に応じた適切な練習を選択したり、工夫をして取り組む。 ・互いに助け合い教え合おうとする。 ・ルールやマナーを守り、フェアプレイを大切にする。 	○	○	○	
評価の観点 (評価基準)	<ul style="list-style-type: none"> ○授業に主体的、積極的に取り組んでいるか。 ○体力の高め方、運動の技能を身に付けられたか。 ○仲間と協力をし、健康・安全に留意して取り組んでいるか。 							
評価の方法	出席状況、授業態度、授業の記録、実技テスト等により総合的に評価する。							
学習の手引き	<ul style="list-style-type: none"> ○自己や仲間の課題を発見し、運動の取り組み方や練習方法を工夫する。 ○仲間と協力をし、自己の役割を自覚し、活動を振り返る。 							
授業担当者	(男子) 松村、古里、糟谷 (女子) 松村、伊藤、切通							

令和6(2024)年度 年間授業計画									
教科・科目		保健体育		保健		1		単位	
対象学年・組		2年生				必修			
教科書(出版社)		現代高等保健体育(大修館書店)				現代高等保健体育保健ノート			
学習目標【観点別】		(1) 健康・安全に関する基本的な知識を理解し、総合的な認識を高める。 (2) 人間諸活動が自然を破壊し、人間の健康に悪影響を与えていることを理解する。 (3) 生涯を通じて健康で生き甲斐のある人生が過ごせる意識と実践の基本を身に付ける。							
学期	予 定 時 数	単 元 具 体 的 な 指 導 目 標	指 導 項 目 ・ 内 容		評 価 規 準		知	思	態
1	前 半	###	生涯を通じる健康	01ライフステージと健康	生涯の各段階で様々な健康問題に出会うことを理解するとともに、思春期である今の心や体をよく理解し、適切に行動する。 生涯の各段階で様々な健康問題に出会うことを理解するとともに、家族計画や中高年期を健やかに過ごすための取り組みをよく理解し、適切に行動する。				
				02思春期と健康					
				03性意識と性行動の選択					
				04妊娠・出産と健康					
				05避妊法と人工妊娠中絶					
	後 半	###	生涯を通じる健康	06結婚生活と健康					
				07中高年と健康					
				08働くことと健康					
				09労働災害と健康					
				10健康的な職業生活					
2	前 半	7	健康を支える環境づくり	01大気汚染と健康	健康にかかわる環境について学ぶことは、健康な生活を営むために、そして社会全体の健康のためにも大切なことを理解する。中高年期においていづれであうであろう健康問題や、それぞれの段階で必要となる保健・医療機関の活用方法について学ぶことで、生涯を通して健康を意識する能力を身に付ける。				
				02水質汚濁、土壌汚染と健康					
				03環境と健康にかかわる対策					
				04ごみの処理と上下水道の整備					
	後 半	7	健康を支える環境づくり	05食品の安全性					
				06食品衛生にかかわる活動					
				07保健サービスとその活用					
3	9	健康を支える環境づくり	08医療サービスとその活用						
			09医薬品の制度とその活用						
			10さまざまな保健活動や社会						
			11健康に関する環境づくりと						
評価の観点	個人成績を評価の基準とし、授業を受ける態度、取り組みを評価の参考にする								
評価の方法	・学期末に考査の実施(3回)の個人成績を反映する								
学習の手引き	グループ活動の中において、テーマに応じた話し合いを積極的に行い、教材に関心を持つ								
授業担当者	松村、伊藤、鈴島								

令和6(2024)年度 年間授業計画

教科・科目		芸術		音楽 I		2		単位			
対象学年・組		2年生				必修選択					
教科書 (出版社)		MOUSA I (教育芸術社)				音楽通論 (教育芸術社)					
学習目標 【観点別】		1. 発声や呼吸に気をつけて、作品を理解しながら表情豊かに歌唱することができるようになる。 2. 器楽（ギター）の演奏法を習得し、ギターとピアノで合わせることができるようになる。 3. 幅広い音楽に触れ、生徒の音楽に対する興味・関心を深め、音楽を愛好する心情を育てる。 4. 楽譜の仕組みを理解し、簡単な創作ができるようになる。									
学期	予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	歌	器	創	鑑	知	思	態
1	前半	12 歌唱 創作	・翼をください、花等 ・単旋律の創作	発声や呼吸を意識して、表情豊かに歌唱 することができる。 短い詩に、単旋律を作る。	○		○		○	○	○
	後半	12 歌唱 創作	・小さな空、夏の思い出等 ・単旋律の創作	発声や呼吸を意識して、表情豊かに歌唱 することができる。 短い詩に、単旋律を作る。	○		○		○	○	○
2	前半	14 歌唱 器楽（ギター）	・オーソレミオ、メモリー、 誰も寝てはならぬ等 ・ちょうちょう、メリーさん のひつじ等	発声や呼吸を意識して、表情豊かに歌唱 することができる。 簡単なコードによるリズム演奏がで きる。	○	○			○	○	○
	後半	14 歌唱 器楽（ギター）	・合唱：校歌・懐かしきケン タッキーの我が家等 ・小さな世界等	発声や呼吸を意識して、表情豊かに歌唱 することができる。 簡単なコードによるリズム演奏がで きる。	○	○			○	○	○
3	18	歌唱 鑑賞	・この道等 ・様々な管弦楽曲 ・ピアノ曲の変遷	発声や呼吸を意識して、表情豊かに歌唱 することができる。 年代や作曲家による楽曲の特徴を味わ うことができる。	○			○	○	○	○
評価の観点 (評価基準)	主体的な授業態度で、周りとの協力し音楽を楽しむことができているか。										
評価の方法	実技試験、提出物、小テスト、授業態度										
学習の手引き	実技教科ですので、活動する時間が多くなってきます。 授業への出席や授業態度はもちろん、意欲的に活動に参加しましょう。										
授業担当者	仲田 賀一										

令和6(2024)年度 年間授業計画

教科・科目		芸術 書道 I		2 単位							
対象学年・組		2 年生		必修選択							
教科書 (出版社)		書道 I (教育出版)									
学習目標 【観点別】		1 基本的な筆使いを身に付け、古典的な知識と技能を習得する。									
		2 芸術に対する興味と関心を深める。									
学期	予定時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	漢 仮	漢	仮	鑑	知	思	態
1	前半	12	ペン字演習 楷書の学習	・ペン習字の基礎 ・九成宮醜泉銘	楷書の基本点画を学ぶ。字形の整齐に留意する。部首や筆順を学ぶ。背勢の字形の特徴に留意する。楷法の極則と評される鋭い筆法と端正な字形に留意する。	○	○	○	○	○	○
	後半	12	楷書の学習 作品の制作	・雁塔聖教序 ・孔子廟堂碑	起筆の露鋒と藏鋒を習得する。線は太細、抑揚に留意する。北魏の筆遣いの特徴を捉える。		○		○	○	○
2	前半	14	行書の学習	・蘭亭序 ・風信帖	行書の成立・楷書と行書の筆使いの違いを理解する。 行書の成立・楷書と行書の筆使いの違いを理解する。		○		○	○	○
	後半	14	行書の学習	・祭姪稿	行書の成立・楷書と行書の筆使いの違いを理解する。		○		○	○	○
3	18	仮名の学習	・平仮名・変体仮名 ・蓬莱切	小筆による技法を習得する。				○	○	○	○
評価の観点 (評価基準)	毎時間の提出物、授業態度、忘れ物の有無										
評価の方法	提出物の評価、授業態度、忘れ物										
学習の手引き	提出作品については古典の特徴を表現できたか。 また創作作品では自分の意図した表現ができたか。										
授業担当者	松岡 久恵										

令和6(2024)年度 年間授業計画

教科・科目		芸術 美術 I		2 単位							
対象学年・組		2年生		必修選択							
教科書 (出版社)		高校生の美術1 (日本文教出版)									
学習目標 【観点別】		<ul style="list-style-type: none"> ・美術、工芸の創造活動を通じて、美的感覚を豊かにし、表現と鑑賞の能力を伸ばすとともに芸術を愛好する心情を養う。 ・ものづくりを通して多くの経験をし、場面に応じて対応できる柔軟な思考をもつ。 ・さまざまな立場の人についての知識を培い、他者理解につなげるとともに、自身の生き方について考える。 									
学期	予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	絵 彫	デ ザ	映 画	鑑 賞	知 識	思 考	態 度
1	前半	12	オリエンテーション 鉛筆デッサン (絵画)	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の授業の確認 ・与えられたテーマのクロッキーを繰り返し、画力の向上を目指す ・鉛筆の使い方 (立方体・円柱・球体) 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業規律を確認する。 ○鉛筆の持ち方、アタリの取り方、中心線の引き方、明暗の付け方、面で把握する見方、練り消しゴムの使い方など身につけているか。 ○主体的・協働的に学習活動に取組もうとしているか。 	○		○	○	○	○
	後半	12	鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・DVD ・対話を重視した鑑賞 ・アートカード 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品・作者の知識を広げているか。 ○観察力・思考力を伸ばせているか。 ○主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取組もうとしているか。 		○	○	○	○	○
2	前半	14	鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・DVD ・ファシリテーター体験 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品・作者の知識を広げているか。 ○観察力・思考力を養うことができているか。 ○DVDとワークシートを使用し、作品や作家への理解を深めているか。 ○擬人化の効果について考えることができているか。 	○	○	○	○	○	○
	後半	14	立体 素描 色彩学 鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜をモチーフにした演習 ①粘土 ②鉛筆デッサン ③水彩絵の具による着彩 	<ul style="list-style-type: none"> ○混色について理解しているか。 ○互いの作品について鑑賞しあうことができるか。 	○			○	○	○
3	18	工芸	<ul style="list-style-type: none"> ・木彫 ① デザイン ② 転写 ③ 裁断 ④ 磨き・彫り・彩色 ・1年間を振り返り (作品鑑賞) 	<ul style="list-style-type: none"> ○クライアントの意向に沿ったデザインを考えることができているか。 ○木材の性質をしかし、丁寧に作業ができているか。 	○	○	○	○	○	○	○
評価の観点 (評価基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に授業に参加し、表現と鑑賞の能力を伸ばせたか。 ・各単元の目標を達成したか、さらに表現を追求できたか。客観的に自己評価できたか。 										
評価の方法	出席状況・授業態度・ワークシートの内容・課題の完成度・計画性とその達成状況・試行錯誤の経過・後かたづけや整理整頓を行い、よい制作環境をつくる姿勢等										
学習の手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に使用する道具 (文房具から工具まで) を正しく安全に使えること。 ・自分の作品を大切にすること。毎時間新しい技術を身につけ、発見のある教科です。 ・試行錯誤する体験を数多く行います。忍耐と努力から傑作を生み出す喜びを味わいましょう。 										
授業担当者	森田 真理子										

令和6(2024)年度 年間授業計画												
教科・科目		外国語 英語コミュニケーションⅡ			4 単位							
対象学年・組		2年生			必修							
教科書(出版社)		Power On English CommunicationⅡ (東京書籍)			Power On English CommunicationⅡ WORKBOOK/コーパス3000(東京書籍)/他							
学習目標【観点別】		<p>基本的な語彙や文法を理解し、文章の内容を読み取ることができる。</p> <p>情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えることができる。</p> <p>積極的にコミュニケーションを取り、異文化理解を深める。</p>										
学期	予定時	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	聞	読	話 や	話 発	書	知	思	態
1	前半	24	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。 Lesson1 Play me, I'm yours Lesson2 Ethical Fashion	①語彙や文法の知識をもとにストリートピアノが設置された経緯についての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②語彙や文法の知識をもとにエシカルファッションについての英文を読み、要点や考えを伝えている。	○	○	○	○	○	○	○	○
	後半	24	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。 Lesson3 One for All, All for One Lesson4 Vending Machines	①語彙や文法の知識をもとにスポーツ選手についての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②語彙や文法の知識をもとに海外の自動販売機についての英文を読み、要点や考えを伝えている。	○	○	○	○	○	○	○	○
2	前半	28	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。 Lesson5 Design for Connecting Society: Braille Neue Lesson6 New Banknotes	①語彙や文法の知識をもとにブレイルノイエについての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②キャッシュレス社会についての英文を読み、要点や考えを伝えている。	○	○	○	○	○	○	○	○
	後半	28	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。 Lesson7 Some Secrets about Colors Lesson8 Powdered Natto Solves a Global Water Problem	①語彙や文法の知識をもとに色の心理的効果についての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②語彙や文法の知識をもとに納豆から作られた粉がもたらす生活の変化についての英文を読み、要点や考えを伝えている。	○	○	○	○	○	○	○	○
3		36	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。 Lesson9 Flying after Her Dreams Lesson10 To Work or Not to Work?: Humans and Robots	①語彙や文法の知識をもとにあるアメリカ人女性についての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②語彙や文法の知識をもとに人間とロボットの今後の関係性についての英文を読み、要点や考えを伝えている。	○	○	○	○	○	○	○	○
評価の観点(評価基準)		定期試験を中心に評価する。その他、授業への参加度や提出物、授業内試験も考慮する。										
評価の方法		定期試験、授業内試験(ライティング・スピーキング・リスニング)、提出物等										
学習の手引き		教科書、参考書、ワークブック、JET・ALTとのTeam Teachingにより指導										
授業担当者		伊志嶺 吏人・北原 理史・今川 明										

令和6(2024)年度 年間授業計画									
教科・科目		外国語 論理・表現Ⅱ			2 単位				
対象学年・組		2年生			必履修				
教科書 (出版社)		VisionQuestⅡ English Logic and Expression Ⅱ							
学習目標 【観点別】		<p>基本的な日常表現を理解し表現できる。</p> <p>自己の考えを論理的に表現できる。</p> <p>英語を読む、書く、聞くの学習努力を継続する。</p>							
学期	予定 時	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態		
1	前半	12 日常表現の理解	目標を達成のために必要な表現 文法、語法の基礎	英語を論理的に理解し表現する。	○	○	○		
	後半	12 将来の生活の予測	現在・過去・未来のを表すための適切な表現 文法・語法の理解	英語を論理的に理解し表現する。	○	○	○		
2	前半	14 環境問題に関する表現	原因・理由・結果を考え、環境問題に関して自分の意見を伝える。	英語を論理的に理解し表現する。	○	○	○		
	後半	14 AIに関する自分の意見を表現する。	想像上の出来事を表現して、他人に伝える。	英語を論理的に理解し表現する。	○	○	○		
3	18	健康とストレスに関して自分の考えを表現する。	現代史の理解とその論理表現	英語を論理的に理解し表現する。	○	○	○		
評価の観点 (評価基準)		基本的な英語表現の達成と自己の考えの明確な表現の達成度							
評価の方法		定期考査、授業内の発表、学習レポート、授業内小テスト							
学習の手引き		日々の英語を読む、聞く、書くの努力、英語による自己表現の練習							
授業担当者		稲垣 浩二・今川 明・岡本 愛美							

令和6(2024)年度 年間授業計画

教科・科目		家庭 家庭基礎		2 単位			
対象学年・組		2年生		必修			
教科書 (出版社)		Survive!! 高等学校 家庭基礎 (教育図書)					
学習目標 【観点別】		<p>家庭基礎では、健康で安全に快適な毎日を過ごし、自らの生活に役立つ知識や技術を身につけ、「自分らしい生活を作り出せる」ことを学習目標としている。</p> <p>また、自分の将来・人生を見つめ、親や高齢者として生きる上で、必要な役割等についても学習し、共生とは何か、エンカルな生活とは何かを考える力を身につける。</p> <p>実習においては、生活に必要な最低限の知識・技術の習得はもとより、身の回りの物事を効率的に進めるための段取り力を身につける。</p>					
学期	予定時	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態
1	前半	12 1章 消費生活・環境 2章 衣生活	成年年齢の引き下げ/契約と消費者トラブル/消費者の権利と責任/生活費と家計/これからの消費生活/人と衣服/衣服計画・表示・成り立ち/基礎縫い実習	家計の仕組みと経済の関係性、契約など生活に必要な知識を身につける。電子マネー、クレジット、ローンなど決済の多様化について学習し、多重債務などのリスクについても理解する。循環型社会、持続可能な社会に担い手としての知識と態度を身につける。	○	○	○
	後半	12 4章 住生活 6章 高齢期の生活	人と住まい/ライフスタイルと住まい/安全な住まい/衛生的な住まい/これからの住生活/高齢期を理解する/高齢者の生活を支える仕組み	住居の機能・管理について理解する。多様な住まい方や、環境との共生について理解を深め、考える。ライフサイクルの一部として高齢者の生き方を考え、理解を深める。	○	○	○
2	前半	14 7章 共生社会 5章 子どもの保育	共に生き、支え合う社会/こどもの発達/こどもの遊び/こどもの生活・大人の役割/子育ての環境、子育て支援安全な取り扱い	社会保障について学習し、共に生きる社会を作り出せるようにする。子どもの基礎的な知識を身につけ、親としての姿勢を考えさせる。現代の子育て環境や地域社会との関わりに関心を持ち、社会の一員としての態度を身につける。	○	○	○
	後半	14 3章 食生活	人と食生活/食品と栄養素/食品の選択・保存、安全な取り扱い/献立作成/調理実習/これからの食生活	栄養や身体を理解するとともに、自己の食生活を振り返り、改善の手だてを考える。経済・環境・伝統文化等の社会的視点から、食生活のあり方に関心を持ち、安全で衛生的な食生活を営む態度を身につける。調理実習を通して、基礎的な調理技術を習得するとともに、日常生活の中で活用できる力を身につける。	○	○	○
3	18	8勝 青年期・家族	青年期を生きる/現代の家族/家庭生活の成り立ち/家族と法律	社会の中で自分のあり方について、客観的に見つめ、自己理解を深めて、自らの人生を考える。現代の多様な家族の特徴を知り、将来自分が作りたい家族について考える。また、家族関係のより良いあり方についても考えられる力を身につける。	○	○	○
評価の観点 (評価基準)	本科目の学習目標達成に向けて、知識・技術が習得できたか、意欲的で実践的な態度で取り組めたか、協働において他者への配慮や協力する姿勢で取り組めたか。						
評価の方法	定期考査・作品や提出物などの課題・授業への取り組む姿勢等を総合的に判断し、評価する。						
学習の手引き	互いに学びあって自己の能力を引き出せるようにする。教科書、資料集などは毎時間用意し、教材・教具の自己管理をする。班での実習は互いに協力し合って作業する。						
授業担当者	嶋根 智子						